

福崎町文化財だより

89

福崎町教育委員会
柳田國男・松岡家記念館
神崎郡歴史民俗資料館

記念館だより

柳田國男・松岡家記念館では昨年10月4日(土)から12月7日(日)まで、4年ぶりの記念展を開催し、柳田國男生誕一五〇年の節目を祝いました。

今回は、展示した資料のほんの一部をご紹介します。記念展を振り返ると共に、福崎町と柳田國男のつながりをご紹介します。

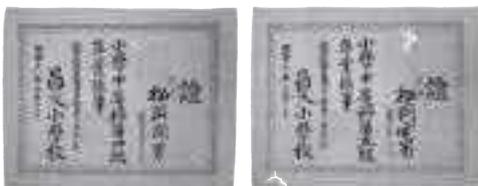
まずは、柳田國男の小学校時代の証書類のなかから「卒業証書」をご紹介します。

明治時代初期に学校教育について定められた学制では、子どもたちは満年齢で6歳になってから小学校に入学する制度になっていました。しかし資料①には「当三月四年六カ月」とあり、國男は明らかに6歳よりも早く入学していることが分かります。他の証書も併せて見てみると、2つの級を同時に卒業したり(資料②③)、試験で上位に入ったりしており、同級生たちよりも幼いであろう國男が優秀な成績を修めていたことが分かります。

國男が「学校に早くあげられた」理由については、長兄・鼎が昌文小学校の校長であったため、と書き残しています。(「故郷七十年」「昌文小学校のことなど」)



▲資料①：証書 (下等小学第八級卒業)



(右) 資料②：証書 (小学中等科第五級卒業)

(左) 資料③：証書 (小学中等科第四級卒業)

いずれも日付は明治16年9月27日となっています。

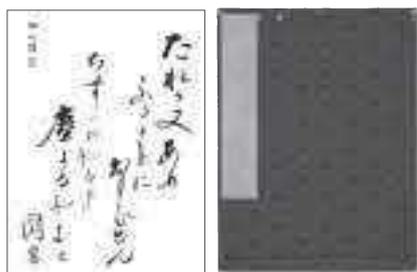


▲三木拙二宛松岡國男葉書 (三木家蔵)

次は、柳田國男から大庄屋三木家9代当主へ送られた信書のなかで、明治26年(1893)8月30日付の葉書です。國男はこの年第一高等学校合格の祝いとして京都にいた弟の松岡静雄とともに、当時姫路にいた兄・井上通泰宅に招かれた後、辻川を訪れて三木家の世話になっていきます。さらに生野にある祖父・真継陶庵の墓を詣で、多可にある父・操が神主をしていた神社を訪れた後、東京に帰ってからこの葉書を送りました。

最後は、辻川で活版印刷所を営んでいた後藤安次郎が寄せ書きを集めた色紙帳です。令和6年度に記念館に寄贈されました。自身の還暦祝いとして播磨出身の文化人や、大寺院の住職等にも書いてもらったものと伝わっています。

國男だけでなく、通泰、静雄、輝夫(映丘)も文章や絵を寄せており、兄弟と故郷福崎の人々とのつながりが分かる貴重な資料となっています。記念展では國男の寄せ書きをご紹介します。



▲著名人色紙帳寄せ書き

(右) 表紙

(左) 柳田國男直筆ページ

記念館ではこれからも、福崎町ならではの視点から、柳田國男をはじめとする、松岡家の功績をご紹介します。

令和7年度記念展報告

令和7年度 埋蔵文化財発掘調査速報

社会教育課では、町内の各種開発に伴い、埋蔵文化財調査を行っています。

令和7年度は、試掘・確認調査を20件、工事中の立会調査を7件実施しました。おもな調査成果をご紹介します。

長目北中才遺跡（長目地区）

個人住宅新築工事に伴う試掘調査により、新たに発見された遺跡です。多量の弥生土器片を含む遺構が確認されました。

調査範囲が限られていたため遺構の性格は不明ですが、土器の特徴から弥生時代中期後半（約二千年前）のものということが分かります。長目地区の南端に位置する藤田神社周辺には弥生時代の遺跡として知られる「南田原長目遺跡」が存在していますが、今回の調査はその北側にも古くから人々が生活したことが分かる貴重な成果となりました。



長目北中才遺跡弥生土器出土状況

鍛冶屋遺跡（鍛冶屋地区）

鍛冶屋遺跡は、現在の鍛冶屋集落西側に広がる古代から中世の遺跡として知られています。

個人住宅新築工事に伴う確認調査を実施したところ、ピットの中から須恵器の山茶碗がほぼ完全な状態で出土しました。土器のかたちから平安時代後期のもと考えられます。



鍛冶屋遺跡須恵器出土状況



土器をていねいに取り上げるようす

歴史民俗資料館だより

戦後80年 福崎と戦争

一区有文書が伝える戦争―

近隣空襲地への救援

本年度特別展にて取り上げました資料をご紹介します。

昭和二十年七月三日深夜から四日未明にかけて姫路大空襲があり、市街地は壊滅的な被害を受けました。区有文書には、その被害に対して救援を行っていたことを示す文書があります。

一つは、四日付で「至急」の朱印が押された通達書です。戦災援護物資の供出命令が伝えられ、田原村では布団類百七十九点や衣類九百九点、食器千八百七十一点が割当られ、各地区で分担し買上品として荷造りされました。

その他に、戦災農家に対して余っている稲苗を集めて寄付をしたり、被害を受けた備蓄倉庫の麦を飼料として買い取りを行う旨の文書があります。これらの対応は、空襲から一週間ほどのうちに行われ、一刻も早い救援が目指されていたことが推測されます。

町村単位だけでなく、近隣地域で支え合っていた様子を知ることができま



戦災援護物資にかかる通達書
 辻川区有文書
 昭和20年7月4日
 通達書に記載された荷札様式。
 「戦災援護買上物資」の文字が見られます。



昭和の福崎に関する写真・資料を探しています

令和八年は、昭和元年から起算して満百年を迎えます。その節目にあたり、昭和の福崎の町並や生活風景の写真、商店街・個人商店の写真、昭和のポスター・広告、看板等を探しています。資料の情報をぜひお寄せください。



昭和40年頃の福崎駅

☎ 歴史：22-5699

松岡五兄弟

柳田國男・松岡家

第88話



〜福崎の身近にある歴史を掘り起こそう〜

柳田國男・松岡家と播磨の縁

―國男の神崎郡嫌い―

神戸大学大学院人文学研究科 特命講師 井上 舞

江戸時代は家柄や身分によつて出世が左右される時代でした。しかし明治になって

それまでの身分制度が廃止されました。誰もが自らの才覚と努力によつて出世することが可能になり、学問はそのための有効な手段の一つでした。

松岡五兄弟は、こうした日本が大きな転換期を迎えた時期に生まれ、父から授けられた学問に支えられながら学校を優秀な成績で卒業し、それぞれが進んだ分野の第一人者となりました。彼らは播磨の誇りであり、立身出世を目指す若者たちの憧れでした。

そうした中で、昭和2年(1927)に福崎村出身の岸上敬治が『市川名鑑』という本を上梓します。これは志ある農村の青年たちの立身出世に

資するために、同郷出身の成功者の人物誌をまとめたものです。神崎郡出身者を中心に、神戸・大阪・東京などに在住する39名の経歴を紹介し、可能な限り肖像写真や筆跡、ときには本人からの寄稿を掲載しています。

松岡五兄弟からは、井上通泰・柳田國男・松岡映丘の3人が紹介されています。うち、井上通泰は人物紹介だけでなく、三上参次とともに題字を担当したほか、岸上敬治の依頼に応えて、少年たちのために直筆で歌をしたためています。松岡映丘についても経歴だけでなく、口絵に大正15年に発表したばかりの作品「みぐしあげ」の写真が掲載されています。

柳田國男もまた「我が神崎郡出身人物として最も誇るべく偉人なる名士」として紹介されています。前半では、東京帝国大学法学科卒業であること、官僚としての華々しい

経歴、官を辞した後、東京朝日新聞において流暢な文体をもって社会文化の発展に努めたことなどが、美辞麗句を用いて記されています。ところが後半に入ると、岸上敬治は突然、読者たちに訓戒を垂れはじめます。

岸上は國男の経歴に感銘を受け、読者のために文章の寄稿を依頼しました。しかしその依頼は一通の葉書によつて謝絶されます。快く引き受けてくれると思っていた岸上は驚いて、國男に近しい人にその理由を尋ねました。すると次のような返事が返ってきたのです。

柳田國男はもともと人情に厚く世話好きで、神崎郡出身者に頼られたときにはよく世話をしていた。にも関わらず、それらの同郷者の多くが親切を無にしたばかりか、多大な迷惑をかけた。このために「神崎郡と云へば身震いするほど嫌な感じを催して、一切郷里

の為に生半可な親切はしない」と決心した、と。

岸上は、これは大変に不名誉なことであると同時に、後に続く若者たちの将来も左右する問題である。先達の親切を無にした者は大いに反省し、後に続く者は、自身の失敗が出身地の迷惑となることをよくわきまえ、神崎郡の青年は世話のしがいがあると喜ばれるようにしなければならぬといと述べ、どのような激励の文章よりも教訓になるだろうと、國男から届いた寄稿謝絶の葉書を掲載しています。

國男と神崎郡出身者との間に何かあったのか。詳しいことはわかりません。ただ、國男は在京の播磨出身者を中心に結成された「播州会」にも、他の兄弟が名を連ねているにも関わらず参加していません。また、大正12年(1923)ころに辻川の名士が還暦祝いで揮毫を求めた際も、祝辞とも思えぬ歌を寄せています。このことも、神崎郡嫌いとは無関係ではないのかもしれない。

晩年の國男は、若者たちに対して何かと世話を焼き、こ

に乗ってくれたそうです。一方、就職の斡旋や金銭の無心のように自分の都合で物事を頼んだ際には、ひどく怒ったといひます。(千葉徳爾『福崎と柳田國男』)。また、政治に関わった兄・井上通泰の取り巻きに苦言を呈したこともありました。(「次兄の逸話」)。自己の努力を怠り、他者の地位に擦り寄りたり、利用しようとする人々を、國男は軽蔑していたのです。



『市川名鑑』

三木家住宅だより

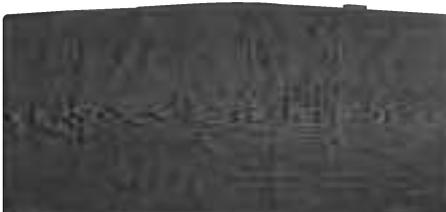
「質素儉約中」の

木額レプリカ作製

三木家住宅主屋入り口の大戸のうえには木額が掲げられています。墨書が読めなくなっていました。そこで特殊撮影を用いて、墨書の文字を復元し、木額のレプリカを作製しました。



▶元の木額



▶特殊撮影(レーザー光撮影)した木額

木額には「不如意付質素儉約中無心合力一切相断」(お金の工面がつかず慎ましく生活しているため金銭の願いは一切お断りします)と記されています。質素儉約に務める三木家の家風がうかがえる木額をぜひ見に来てください。



主屋大戸の上のレプリカ木額

松岡映丘画稿展

令和8年の干支“午”

令和8年度の松岡映丘画稿展は、今年の干支にちなみ、馬を描いた作品を取り上げます。映丘が得意とした武者絵にも欠かせない馬の描写に焦点を当てた作品を展示します。

●開催期間 4月4日(土)～6月7日(日) ●会場 柳田國男・松岡家記念館

～埋蔵文化財発掘調査成果の展示～

南田原条里遺跡第62次調査成果を公開中

令和6年11月から12月にかけて、中播消防署本署建替事業に伴う発掘調査を行いました。出土した土器等を展示していますので、ぜひご覧ください。



展示期間 3月末まで
展示場所 歴史民俗資料館

「雛人形展」開催中

期間 3月22日(日)まで

場所 三木家住宅主屋

※土・日曜日、祝日のみ開館

開館時間 9:00～16:30

(入館は16:00まで)

柳田國男・松岡家記念館 歴史民俗資料館 利用案内

開館時間

9時～16時30分

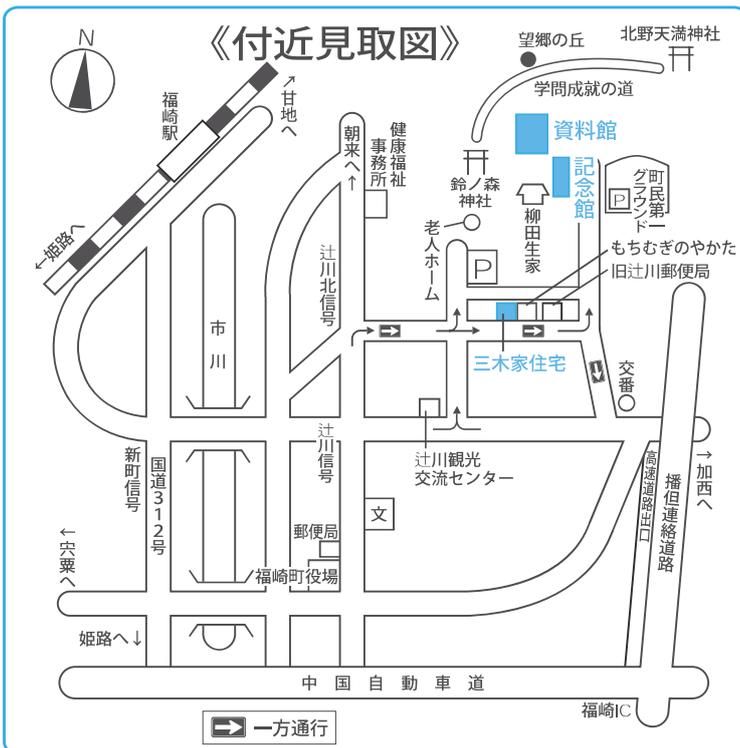
休館日

月曜日(祝日の場合は開館)、
祝日の翌日(土・日曜の場合は
開館)、12月28日～1月4日

入館料 無料

交通 JR播但線で福崎駅下車、
タクシー約10分。車は播但
連絡道路・中国自動車道で

福崎ICから約5分、または
国道312号を利用。



福崎町文化財だより 89
発行 令和8年3月5日

●福崎町教育委員会

●福崎町南田原311の1

☎0790-220560

●柳田國男・松岡家記念館

●神崎郡歴史民俗資料館

福崎町西田原108の12

☎0790-221000

(記念館)

☎0790-225699

(歴史民俗)

